

## 令和4年度第2回瀬戸市水道事業経営審議会 結果

1 開催日時	令和4年11月8日(火) 午前10時から午前11時20分まで
2 会場	瀬戸市役所 北庁舎4階 庁議室
3 出席者	委員 5名 愛知工業大学 教授(会長)、中京大学 准教授(副会長) 瀬戸市自治連合会 会長、瀬戸市社会福祉協議会 会長、 瀬戸消費生活クラブ生活学校 会長 事務局 6名 都市整備部長、水道課長、浄水場管理事務所長、水道課課長補佐、 水道課専門員兼工務係長、水道課管理係長
4 欠席者	瀬戸商工会議所女性会 会長
5 報告	令和3年度瀬戸市水道事業会計決算について
6 議事	(1) 第1回審議会での質疑応答 ・井戸水の使用状況 ・減価償却費と長期前受金戻入 ・類似団体の料金改定状況 (2) 水道料金制度の概要
7 委員からの意見及び質問、それに対する回答	<p>■「議事(1) 第1回審議会での質疑応答」、「議事(2) 水道料金制度の概要」について</p> <p>[井戸水の利用状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井戸水を利用しているのは大口需要者が多いのか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→72件という数値は、平成30年度に愛知県から瀬戸市に井戸水利用に係る届出に関する事務が権限移譲された際に引き継いだものである。</li> <li>→今回の報告に当たり、利用者の分析までは行っていない。</li> </ul> </li> <li>・今後、水道料金の改定を行う場合、大口需要者が井戸水使用施設維持費と水道料金を比較するといった動きが出てくる可能性があるため、井戸水利用状況の分析を行った方が良いと思う。</li> </ul> <p>[水道料金制度の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行料金制度にある「私設共用」とはどのようなものか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→共同住宅のように一つの給水施設を共用するものである。</li> </ul> </li> <li>・水道料金を見直す時期として、瀬戸市水道事業経営戦略(以下「水道事業経営戦略」)には「赤字となってから検討を開始する」とあり、戦略を策定した平成30年度時点では、令和2年度に赤字となる見込みであったが実際は黒字の状況が続いている。 赤字になってから料金改定を検討しても、実際に改定されるまでの期間の赤字分を補填する財政シミュレーションをしていくことになってしまう。 公営企業として、赤字にならないような経営をしていく必要がある。 料金改定を検討したから必ず改定するというものではなく、早い段階から議論をしていくことが大切だと思う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>→類似団体では、赤字になってからではなく、今後必要とされる費用を料金で賄えるかどうかを検証して、必要があれば、料金改定を検討するところもある。 瀬戸市が必要に応じて料金改定をしようとする場合、現行の水道事業経営戦略中「赤字となった場合」と記した「料金改定の検討」の内容を見直す必要がある。</li> </ul> </li> </ul>

・長期的な視点での財政計画上、少しずつでも貯金をしていく必要があるとイメージした方が良いのか。

→施設更新や災害対応などの見通しを立てて費用を積立てておく必要がある。

公営企業として議会の承認を得る必要があるため、過大な積立てとはならない。

→財政シミュレーション中「期末資金残高」として計上している金額が、急遽対応すべき事象に備えての内部留保資金が含まれている。

この金額が減少すると、施設更新や災害時の対応ができなくなってしまうが、金額の多寡は各水道事業体によって考え方が異なる。

・単年度収支だけでなく、ストックマネジメントをはじめとする長期的視点を含めた財政シミュレーションを行う必要があると思う。

・昨今の光熱費高騰は、水道事業経営戦略の財政シミュレーションに反映されていないと思うため、見直すことが必要ではないか。

→水道事業経営戦略は平成30年に策定されてから約4年が経過し、国からも中間見直しの必要性が通達されている。

次回の審議会にて、水道事業経営戦略で記された水道料金改定の検討を行う時期を見直す必要性や財政シミュレーションの見直しを含め、事務局案を提示したい。

#### ■「その他」

現在、「瀬戸市水道ビジョン」を見直しており、令和5年度に「新水道ビジョン」として公表する予定であることを説明

・「水道ビジョン」は水道事業における上位計画であり、見直した結果、水道事業経営戦略などの下位計画にどのような影響が出てくるのか。

→水道事業経営戦略や施設更新計画など水道ビジョンと関わりのある計画は複数存在しているが、中でも具体的な取組みが記された水道事業経営戦略との関わりが強い。

水道ビジョンを見直した結果を踏まえ、水道事業経営戦略の中間見直しも行う予定としている。

・現行施設における耐震化が進んでいないところが複数あるが、どのように考えているか。

→耐震化は実行していかなければならないと考えており、優先順位を決めて対応していきたい。

そのためにも水道事業にとっての内部留保が含まれる「期末資金残高」が必要になってくる。

#### 8 次回以降の進め方と日程

・今回出された意見を受け、水道事業経営戦略の見直しに関する事務局案を提示し、議論を進めていくこととする。

・次回の開催は令和5年2月を予定しており、改めて日程調整を行うこととする。

以上